

◇泌乳持続性について◇

あたらしい牛群検定成績表に泌乳曲線が表示されるようになって、2カ月が経過しました。この曲線の使い方はいろいろありますが、泌乳持続性(LPと表示)の改善について紹介します。

牛群検定で利用している泌乳持続性は、表示されている泌乳曲線から、以下の計算式で算出されています。

泌乳持続性(LP) = 分娩後240日目乳量 - 分娩後60日目乳量 + 100

従いまして、数字が大きいほど泌乳持続性に優れていることを示します。一般に初産の泌乳持続性が高く、2産の泌乳持続性は劣ります。

大まかな目安としては90を下回るような牛群は、泌乳持続性に難点があると考えて良いと思います。泌乳持続性が良い牛群は、繁殖性や生乳の生産性も良いのですが、泌乳持続性が悪い場合は、群としての生産性が低く、搾っても儲からない牛群になっていることが多いので改善が必要です。

牛群検定での泌乳持続性については、以下に詳しく記してありますので、ご参照下さい。

<http://liaj.lin.gr.jp/japanese/liajnews/liaj12111.pdf>

一方、2010- I から種雄牛評価に遺伝能力曲線が表示され、泌乳持続性を遺伝的な面から、視覚的に捉えることが出来るようになりました。2産以上の泌乳持続性は遺伝率も高いので、より大きな遺伝的な改良を期待できます。

新様式の検定成績表が発行され1年が経ちました。成績表にはA、B、Cの3様式があり、検定組合単位で選択が可能です。現在の各様式の選択状況は、新様式Aが 88%、新様式Bが6%、従来同様様式Cが5%となっています。皆さんはどの様式の成績表を活用されていますか？ご感想やご意見をお寄せください。

新様式のAとBは繁殖成績や乳質について単なる平均値だけでなく分布を示しています。そのため、より改善ポイントを見つけやすくなっています。これまで馴染んできた従来様式のCは、シンプルなレイアウトが特徴と言えます。様式AとBの違いは個体検定日成績の一部だけです。A様式は牛の並べ方が分娩月日順で成績を時系列で検討できるところがミソです。特に周産期牛等ステージ毎の飼養管理に活かせるのでお薦めの様式です。B様式は牛の並べ方が牛コード順となります。

新様式では、数字が増えていますが、いずれも意味のある数字です。勘どころを押さえてご覧いただくと色んなことが見えてくると思います。新様式になって難しくなった、使い切れないと敬遠しないでぜひご活用下さい。